

【生団連通信 Vol.37】

「骨太方針 2020」ポイントのご紹介

7月17日に閣議決定された「骨太方針 2020」について、「国家財政の見える化」担当から見た簡単なポイントと所感についてご紹介いたします。

■「骨太方針」とは？

「経済財政運営と構造改革に関する基本方針」の通称。

2001年小泉政権時に、官僚主導ではなく首相官邸が政治主導で予算を編成するために始まりました。

この決定を受け、毎年度の予算編成や重要政策が決められていきます。

■「骨太方針 2020」のポイントは？

「新型コロナウイルス感染症の下での危機克服と新しい未来に向けて」という基本テーマのもと、まずは「国民の生命・生活・雇用・事業を守り抜く」ための方策が提示されています。

次に、「新たな日常」の実現に向けた取り組み項目について示されており、重点テーマは以下の通りです。

1. デジタル化への集中投資
2. 働き方改革
3. 地方創生
4. 国土強靱化
5. 経済財政運営と経済・財政一体改革

※概要・概要については内閣府 HP に公開されている資料をあわせてご確認ください。

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2020/decision0717.html>

「骨太の方針」とは、将来の日本の在り方を示し、政策の柱を書き込むのが本来の狙いです。

しかし、今回は浮き彫りとなった課題への対策を網羅的に列記することに重点がおかれたようにも思えます。

どういう国を目指すのかという国家戦略とも言える大きなビジョンと、それに対するロードマップの設定が不足しているのではないのでしょうか。

「20年未までに具体化を図る」とありますが、今こそ、財政面も勘案した中長期的な視野に立ち、コロナ禍からの回復・その先の成長を論じ「現実性を持ったロードマップ」を作成し、国民への丁寧な説明を行うことが必要だと考えます。

生団連では、従来より進めている「国家財政の見える化」に向けた取り組みを加速させることに加え、今年度の活動計画に掲げている複数年度予算制度の実現に向けて、調査・研究ならびに必要な提言を進めてまいります。